平成30年7月豪雨に伴う鹿野川ダムの事前放流について

国土交通省

令和４年１０月９日付け読売新聞３１面「ダム事前放流洪水防ぐ一手」の記事中の「平成３０年７月豪雨では鹿野川ダムが事前放流していなかった」との記事について、事実関係をお知らせします。

【平成３０年７月豪雨に伴う鹿野川ダムの対応】

鹿野川ダムでは、平成３０年７月３日午前１０時３０分頃から予備放流を開始して、同日午後５時４５分頃には、貯水位を予備放流水位である標高８１．０メートルまで低下させました。

その後も引き続き、事前放流により、ダムの貯水位は同年７月６日午前３時頃には標高７７．４５メートルまで低下させました。

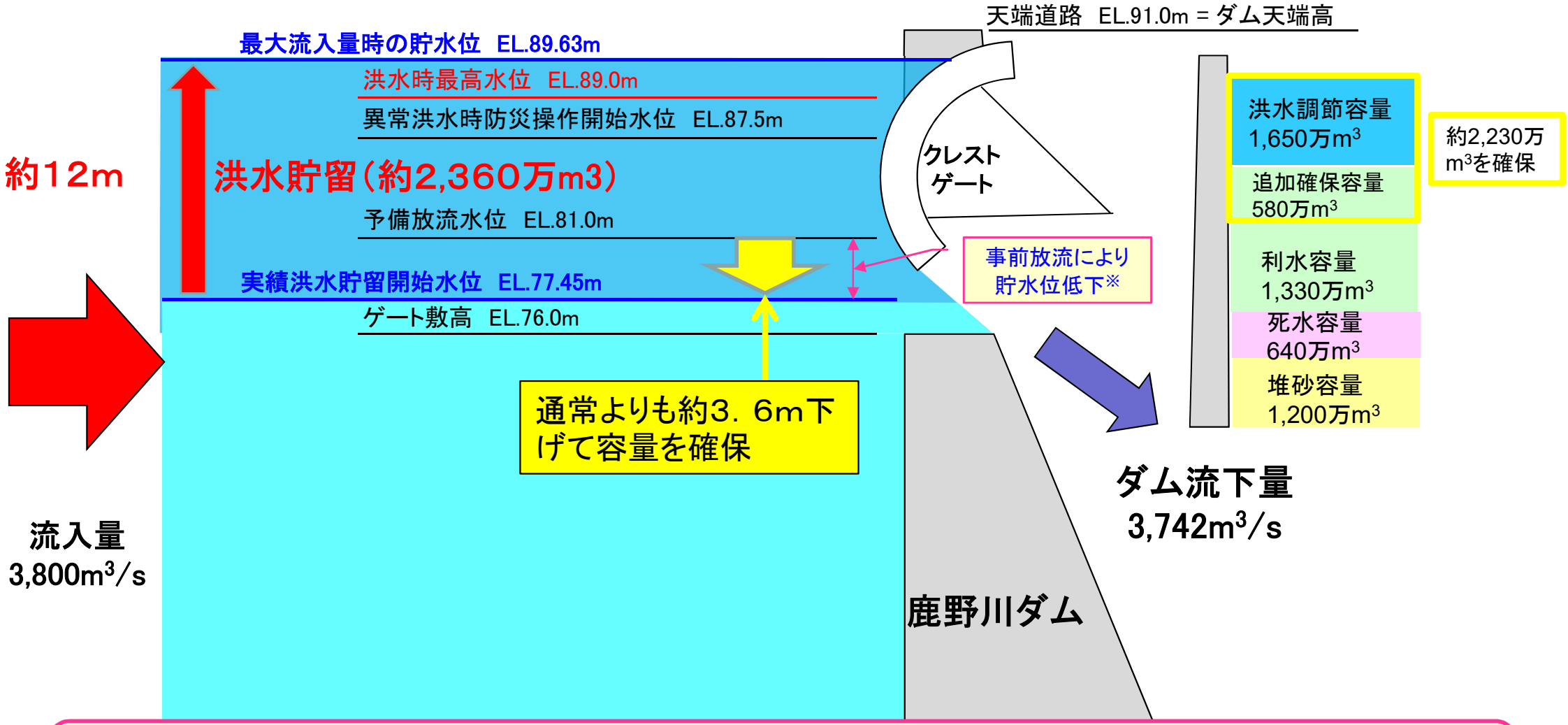
⇒平成３０年７月豪雨に伴う野村ダム・鹿野川ダムの防災操作の詳細はこちら
http://www.skr.mlit.go.jp/kasen/kensyounoba/setsumeisiryou.pdf

鹿野川ダムの洪水貯留イメージ

国土交通省

［速報版］

■通常の貯水位よりも約3.6 m下げて通常の約1.4倍の洪水を貯留する容量（約2,230万m³）を確保。
■今回、洪水時最高水位を超え、施設構造上最大貯めることが可能となる水位（90.1m）付近まで貯留。



※本資料は、平成30年7月19日（木）　第1回野村ダム・鹿野川ダムの操作に関わる情報提供等に関する検証等の場説明資料より抜粋し、「事前放流により貯水位低下」を加筆したものです。